

# 玄海プルサーマル裁判ニュース

No.31

発行日 2020.3.28



発行者: 玄海原発プルサーマル裁判を支える会 会長 澤山保太郎  
 編集者: 玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会 代表 石丸初美  
 〒 840-0844 佐賀市伊勢町 2-14 TEL 0952-37-9212 FAX 0952-37-9213  
 編集責任 永野浩二

E-mail : saiban.jimukyoku@gmail.com  
 URL : http://saga-genkai.jimdo.com/  
 Facebook : http://www.facebook.com/genkai.genpatsu  
 Twitter : @sagakarakaeru

**裁判進行中**

**玄海全基運転差止裁判**

被告:九州電力 原告336人

**裁判終了**

**MOX燃料使用差止裁判**

原告130人 ⇒ 不当判決

**玄海許可処分取消行政訴訟**

被告:国 参加人:九州電力 原告382人

**3・4号再稼働差止仮処分**

債権者236人 ⇒ 不当決定



## “ 安心したくらしを守る裁判 ”

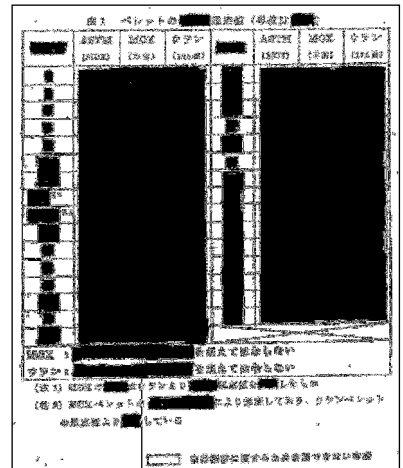
『 証人尋問 4/10と4/17 』 『 佐賀地裁・結審 7/17 』  
 みなさん、傍聴をよろしくお願ひします

### ◆ 理不尽な原発政策 ◆

『民主・自主・公開』原子力基本法に大原則がある。安全確保のために「止める、冷やす、閉じ込める」と設計していると謳っている。失敗すれば放射性物質が拡散するというものだ。だからこそ電力会社が最も優先すべきは「公開」ではないのか。裁判の資料請求をしても黒塗りで返ってくる。広報活動で原発問題を伝える度に、「こんな大事な問題をなぜ公表しない、なぜテレビで報道しないのか」「納得できない」という言葉が返ってくる。中には「国がそこまで酷いことするはずがない」と、聞いた話を受け止められずにいる人も少なくない。九州電力や佐賀県は「情報はHPやチラシで公開している」と誠意ある対応はしていない。国民にとって命とくらしに関わる大事な原発情報は決して行き届いているとはいえない。

福島第一原発事故は検証もなし、廃炉の見通しは立っておらず、貯まり続ける放射能汚染水を海や空に放出しようかととんでもないことを政府は考えている。何よりも原発事故で全国に避難を余儀なくさせられ、今もなお家に戻れない人が数万人もいると聞く。福島は20<sup>3</sup>シーベルト/hという他県の20倍の生活を強いられていること、農地や山を放射能で汚染され仕事を奪われている人々の

こと等など、信じられない酷い話ばかり。福島第一原発事故から9年、あれほどの大事故を起こしながら、当事者である東京電力と国の権力者たちは誰一人責任を問われていない。私は突然被害を受けた人々の憤りを自分のこととして思う時に、その矛先は理不尽と言うほかない。



MOX裁判で出された黒塗り資料  
 被害を受けた人々の憤りを自分のこととして思う時に、その矛先は理不尽と言うほかない。

今やどこで起きてもおかしくない程、地震が日本列島で頻発している。私たちは、MOX燃料使用差止裁判から始まり、3.11を境にプルサーマルから全基差止裁判へと進めてきた。争点は地震と配管、火山問題。

約10年間の裁判の正念場である証人尋問が来る「4月10日と4月17日」2回行われます。結審は2020年7月17日です。佐賀地裁の判決は、2020年度中に出される見通しです。傍聴お待ちいたしております。みなさんのご支援を今後ともよろしくお願ひいたします。(石丸初美)

■ 安心したくらしを守る裁判	…1	■ 玄海町長 “100万” 受領／パネル展	…10
■ 佐賀地裁報告	…2	■ 安定ヨウ素剤事前配布	…11
■ 原告意見陳述 山中陽子／豊島耕一	…3	■ 座談会 参加者からの感想	…12
■ 原告意見陳述 戸田清／堤静雄	…6	■ 12.2反プルサーマル行動に参加して	…13

## 佐賀地裁（全基・行政）報告

2019年12月13日(行訴第24回/全基第32回)と2020年2月21日(第25回/第33回)の二法廷四裁判が開かれました。昨年より、開廷前には裁判体と原告被告の代理人との進行協議が約30分持たれています。「双方とも主張及び反論することは、もうありませんね」と念を押され、裁判長がいよいよ判決を書く時期を見据えて最終局面に入りました。最後の山場「証人尋問」が、2020年4月10日と17日の二回です。

被告・九州電力の「玄海原子力発電所運転差止請求事件」及び被告・国の「玄海原子力発電所3・4号機設置変更許可取り消し請求事件」の2裁判は、九電が行政訴訟に参加人とし途中加入(敗訴すれば不利益を被る立場との理由)により、並行進行しながら同時決着を見ることになってきました。主な争点は(1)「基準地震動の過小評価」(2)「火山噴火に対する立地と影響評価問題」(3)「配管の強度問題」です。

### 「社会通念論」は筋違い

昨年12月の法廷で原告は、巨大噴火について十分な予測予知は存在しない事を証拠で示しました。また、「社会通念論」を持ち出した被告主張は全く筋違いの間違いで認められない理由を明確に陳述しました。審査の基軸となる「火山ガイドの基本的考え方」によれば、発電所内に核燃料物質(MOXを含む使用済み核燃料や高レベル放射性廃液等)が、搬出先が不明、最大貯蔵期間を示せない状態、それは火山噴火等によって影響を及ぼす可能性大となり「疑わしきは立地不適」に該当するのです。故に、原告は「立地適当の証明」が全くできない、火山ガイドの考え方を無視しているだけと厳しく批判しました。このことは、本年1月17日伊方原発仮処分・広島高裁決定でも「社会通念論」が否定されており、「活断層の存在を否定できず、事業者が十分な調査をせず、原子力規制委が問題ないと判断した過程には誤りや欠落があったと言わざるをえない」と運転停止を求めた森一岳裁判長が述べています。

また、3月18日には、規制委の火山部会が「巨大噴火の兆候を捉えてから、原発を停止させるなど事実上不可能」と発表したことなど、私たちの主張に強い追い風が吹いています。

### パンデミック、大地震、巨大津波、原発事故…

今、世界では「新型コロナウイルス」のパンデミックな状況が進んでいます。日本でも、人気スポーツやコンサートなど大規模イベントが中止など自粛に追い込まれ、ついに東京五輪も1年延期が決定されました。もしこんな異常な状況で、南海トラフ大地震

が中央構造線伝いに起き、次に巨大な津波が襲い、玄海原発でフクシマのような全電源喪失から原子炉が冷却できない事故が起きたらどうなるでしょうか？この活断層は伊方原発から川内原発までの連続も疑われ、同時多発原発事故さえあり得ないとは断言できません。九州で大事故が起これば、西風に放射能が乗って西日本壊滅の最悪のシナリオさえ考えられ、その時の避難民を強烈な伝染病が襲う、混乱する避難場所に現場の医療崩壊も、と考えるだけでも背筋が凍りつきます。

原発は廃炉が決まってもそこに在るだけで危険な存在ですが、この玄海原発裁判における国や九電の主張は、ただ「原発ベースロード電源」だからという屁理屈のようです。裁判でも国や九電の言うことは同様です。人知が及ばない自然現象に対しても「それは考えにくい」「容認される」とか、国策・法令・規制基準合致を繰り返す述べます。しかし、緊急時に圧力を逃がす為のフィルターベント設置もテロ等重大事故対策も5年も猶予を貰いながら未完成、作業員が身を守りつつ働く為の耐震構造重要棟等も未完成で、今日も玄海原発は稼働中です。

裁判では、玄海2号機のひび割れ配管の放置から3、4号機の蒸気漏れ穴開き配管トラブルまで、「老朽配管の劣化」を争点に挙げてきました。しかし、4月に施行される新検査制度では、九電の独断で検査をさせて、たとえ割れた配管が発見されても事業者自身が「あと何年安全維持機能があるか」評価判定し、最大24ヶ月まで自己都合で運転ができるようになっています。つまり、規制委は、配管などに合否判定もせず報告を受け了解し公表するだけ、一義的責任は電力会社で国の責任は全く回避という馬鹿げた話なのです。一刻も早くこんな原子力政策を止めさせねばなりません。まず、玄海原発を止めましょう！

### 4/10・17 証人尋問へ！

皆さん、判決、結審前の訴えの山場たる証人尋問に来てください。今回は新型コロナ感染防止対策に傍聴者も人数制限されていますが、私たちの正当な主張を最後まで訴えなければなりません。ぜひとも世論喚起に駆け付けて、お力添え下さい。(荒川謙一)



# 人の手に負えない原発から手を引く決断を！

行政訴訟第24回口頭弁論（12月13日）意見陳述

山中陽子

スケッチ／竹田浩二



1) 今日意見陳述の機会をありがとうございます。山中陽子と申します。玄海原発、唐津方面からの道路の渋滞を日常的に経験している福岡市西区に住む66歳です。

原発問題に関わったきっかけは1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故です。子どもたちが5歳と7歳でした。8000キロ離れた日本でもヨウ素が検出されて親たちの心配は並々ならぬものでした。事故から2ヶ月経った頃、ヨーロッパの幾つもの箇所ではセシウムが集中しているホットスポットがあると報道されました。その時、我が家はドイツ、ミュンヘンへの1年間の留学が決まっていたのですが、そこにもホットスポットがあったのです。チェルノブイリから1200キロも離れていたのにです。

それからやったことは福島で途方にくれた親御さんたちと同じです。食べ物は、外遊びは、どんな服なら？今のようにインターネットがあるわけではなく、どうやって見つけたか、京都の反原発グループのパンフレットを頼りに出発したのです。

それは事故から1年経って、当時の穀物が店頭で並ぶ頃でした。情報を求めて市民の集会に行き、環境研究所を知り、その放射能測定結果リストがバイブルとなりました。肉、卵、パン、野菜、牛乳。あらゆる食材から放射能が検出されているので、タンパク源として日本から大豆を送ってもらい、五目豆を食べて1年を暮らしました。ハムもソーセージも牛乳もだめ。今も五目豆だけは作る気になれません。

こんな暮らしはあってはいけないと、帰国後は原発の学習会に顔を出しているうちに同じ思いの母親達と出会い、脱原発を目指す「たんぼぼとりで」というグループを作ることになりました。今から30年前のことです。

たんぼぼとりででは学習や、講演会・上映会の開催、年に10回の通信を発行して会員約70名を通してメディアにはなかなか載らない原発の情報を発信してきました。反対を言うだけでなく、原発なしでも困らない暮らしを提案したいと「省エネ」「自然エネルギー」に着目、2000年から太陽光発電の普及に関わ

ることも始めました。出資方式でお寺に1つ、国の補助金受給と寄付集めを代行して4つの幼稚園に太陽光発電を設置しました。その後、311の原発事故が起き、固定価格買取制度が導入されて個人でも無理なく設置できるようになり、この仕事はやめました。私たちが関わる以前、3キロワットの太陽光発電は800万円以上していましたが、それを心ある市民が自腹をきって普及させてきたのです。電力会社の重役は「自然エネルギー？おもちゃみたいなものです」といって憚りませんでした。それがいまでは太陽光からの購入を断らなくては原発が動かせないほどの力を持つまでになったのです。

311の事故後は「放射能市民測定室・九州」の設立運営に関わっています。これまでに1250体の測定を行いました。いまでも福島はもとより、東京の土からも漏れなく放射能が検出されとても辛いです。東京に住んでいる友人、知人、子どもたちに伝える言葉が見つかりません。

2)

原発はこれまでの意見陳述でも語られているように、ウランを取り出すところから、運転中、使用済み燃料、廃炉の後始末のどこを取っても危険と汚染の金太郎飴で、このことは311の事故で誰の目にもはっきりしました。今年の九州電力株主総会で社長は二酸化炭素を増やさないために原発は絶対必要だと述べていましたが、その九州電力が新しく作った70万キロワットの松浦火力発電所は二酸化炭素排出の元凶のひとつの石炭火力なのです。彼らは石炭という言葉が資料には載せていません。

私たちは原発について学んでいたので、311のあの日、送電鉄塔が倒れ、停電になったと聞いてすぐに甚大な被害が出ることを予想しました。移動電源車が派遣されたと聞いて間に合うことを手に汗握って祈りました。地震で交通が遮断され、たどり着かないと知った時のおそろしさ。不安は的中し、炉心の冷却できず、爆発し、放射能は風向き通りに流れ、雪の降っていた地方に大量に落ちました。お友達作戦で太平洋にきたアメリカの軍艦は放射能の雲に直撃されて、兵士が白血病や放射能由来の病気に苦しんでいます。

3)

今年9月の台風16号で千葉県は長期の停電を余儀なくされましたが、もしそこに原発があったら同じよ

うな事故になっていたと思います。規制委員会の指導で非常用電源設備は設置されているはずですが、それは1週間以上は持ちこたえません。

津波だけでなく、地震も火山も大きな危険因子です。玄海原発の基準地震動は建設当時370ガルだったものが今回改定されて620ガルになるそうです。実際は大した耐震工事はなされておらず、当初から余裕を見て数字を出していたから大丈夫だと九電では説明されます。しかし、三井ホームは5115ガル、住友林業は3406ガルに耐える家を作っています。620ガルはその5分の1。大丈夫と言えるでしょうか？

火山については言わずもがな。火山学会が予知できないと明言している噴火を一電力会社に過ぎない九州電力は可能と言います。カルデラ噴火のような大規模噴火になったら動物も植物も壊滅しますが、時を経て再びこの地にやってきてミネラル豊富な土地の恩恵を受け、繁栄します。しかしその土壤に長寿命の人工放射能が混ざっていたら、広範囲にわたる死の土地となってしまいます。会社はそこまでの責任は取れない。しかし、今ならまだ未来の被害を小さくできます。

原発格納容器の設計をしていた後藤政志さんが講演会で、原発の根本的危なさを言い表されました。「他の全てのものは壊れても収束へ向かうが、原発だけは違う。核というものはその途方もないエネルギーを抑えて抑えてコントロールしてやっと利用できているものであって、コントロールが解かれたら本来の膨大なエネルギーを開放する方にしか行かないのだ」と。

規制委員会の皆さんにこそ、この重い現実を真剣

に受け止めていただきたいと思います。どうして免震重要棟をやめた上に緊急時対策所を「代替」施設で済ませ、特定重大事故等対処施設の建設に5年もの猶予を与えるのでしょうか？その一点だけでも、あの方々は職務を全うしていると胸を張っておっしゃるのでしょうか。増える一方の自然災害がいつどこでどういう規模で起きるか誰にも予測できない、地球はいま、そう言う段階にきているのに。

4)

9月19日の東京地裁の東電役員の責任を問う裁判で、永淵健一裁判長は「津波についてあらゆる可能性を想定し、必要な措置を義務付ければ、原発の運転はおよそ不可能になる」と述べました。そうです。原発は運転してはいけないのです。

シーメンスというドイツの原発を作っていた会社は原発から撤退し、風力発電に力を入れるようになりました。そこで勤めていた知人の言葉が心を離れません。「日本のように科学の進んだ民主的な国でも原発事故を収束させることができなかった。自然の前に人間は無力で、一度コントロールを外れたら、原発をコントロールすることはできないのだ。だからドイツは原発を止めることにした」と。

人の手に負えない原発を日本も止められますか？決断できるのは、電力会社、政府、設置自治体の長、そして裁判官だけです。

奇跡の宇宙の無類の地球に奇しくも生を受けた人間の一人として、未来の地球の生きとし生けるもののため、コントロールできない原発から手を引く決断をこの裁判にお願いして陳述を終わります。

ありがとうございました。

## 隠蔽される放射能による健康被害

全基差止第32回口頭弁論（12月13日）意見陳述 豊島耕一



私は豊島耕一と申します。福岡県久留米市に住んでいます。九州大学理学部で原子核物理学を専攻し、理学博士の学位を取得しました。久留米大学放射線治療センターに3年勤務した後、佐賀大学で31年余りにわたって、物理学の教育と研究に携わって

きました。私自身の専門が原発の技術の中心にある核反応や放射線と直接関わりがあるため、核兵器の問題とともに原発にはこれまで強い関心を持って来ました。ここでは主にその専門の立場から意見を述べます。

### チェルノブイリ原発事故と緊急対策マニュアルの出版

1986年のチェルノブイリ原発事故は私にとっても大変な衝撃でした。原発が動いている限り日本でも起こりうるし、そのリスクが存在する以上、万一の時の市民レベルでの対処法の知識が不可欠です。またそれを提供することが科学者の責任でもあると考え、そ

の3年後に仲間と原発事故対策マニュアルを出版しました。とは言え私も、日本の原発はソ連とは原子炉のタイプが違うから、あれほどひどいことにはならないだろうと思っていました。しかし福島原発事故を目の当たりにして、この考えは全く浅はかだったと言わざるを得ません。

その「マニュアル」も数年で絶版となり、そのまま放置していたところに福島原発事故が起こったのです。急遽、出版社の同意を得て、事故の6日後に全部をネット上に公表しました。しかし事故4日後の15日の早朝に放射能プルーム(放射能を含む大気塊)が関東圏を襲いましたので、これには間に合わなかったこととなります。絶版状態で事故を迎えてしまったことと併せ、悔やまれます。このマニュアルは、同じグループで急遽改訂版を作り、事故から2ヶ月後に出版しました。

### 首都圏を襲った放射能プルームは知らされず

放射能プルームが関東圏を襲った翌日の16日に、福岡のテレビ局のスタジオに招かれ、その前夜にスタッフと長時間の打ち合わせをしましたが、その時に、米軍横須賀基地の周辺の空間線量のデータを見せました。ネット上に公開されているもので、先に述べた、まさに15日朝の線量の急上昇を示すものでした。平常値の毎時15ナノグレイだったのが急上昇し、朝5時20分から1時間半は毎時100ナノグレイの最大目盛りを突き抜けています。スタッフの人たちは衝撃を受けたようでしたが、結局この重大な事実には放送では全く触れませんでした。首都という人口密集地の多数の人々を襲う放射能プルーム、この放射線に被曝するかどうか、放射能の塵を呼吸するかどうかは、後に述べるように、確率的・統計的に、首都圏の人々の健康に大きな影響を及ぼしたはずで、このような事実をメディアが隠さなければならぬということに、放射能被害の恐ろしさを感じずにはいられません。

### 高崎市の観測所が記録した関東圏の大気中の放射能

放射線量だけでなく、空気中の放射能濃度も関東圏で高い値が記録されています。これは、福島原発事故の直後から群馬県高崎市にある核実験監視のための放射能観測所が継続的に発表していたデータに見られます。それによると、ピークを記録した3月15日<sup>※1</sup>の濃度は、セシウム137と134だけで1立方メートル当たり12.6ベクレルです。単位にミリもマイクロも付きません！そしてこれは平常値つまり事故の前の濃度のなんと1億倍にもなります。ひと月ほどで濃度は下がったとはいえ、100ミリベクレルから数十ミリ

ベクレルの状態が何年も続きました。最近でも、福島県では2017年の平均値として、福島市の0.057ミリベクレル、双葉郡大熊町ではその一桁上の0.36ミリベクレルという値が記録されています<sup>※2</sup>。これらは事故前の濃度の100倍から1,000倍で、大気圏内核実験の影響が残る1970年代の値に匹敵します<sup>※3</sup>。呼吸によって体内に取り込まれた放射能は、長期間にわたって内部被曝を引き起こします。体内に仕込まれたマイクロの時限爆弾となるのです。

### 危惧される広範な健康被害

福島原発事故による直接の被害を最も被ったのは、いうまでもなく原発周辺を中心とする福島県民ですが、その放射能被害でさえ、例えば子供の甲状腺ガンのようにメディアから無視されています。しかし関東圏の住民という巨大な被曝集団については、その影響について語られることさえありません。ここで私が関東圏の放射線、放射能の状況を取り上げたのは、これが常識に反する異常なことだからです。

国際放射線防護委員会(ICRP)は「集団線量」、つまり、被曝線量のある人口集団で積算した量を定義しており、集団への放射線による健康への確率的影響の尺度としています。さらに、この確率的影響は「線形・しきい値なしモデル」、つまり低い被曝線量であってもその線量に比例して影響が表れるものと想定しています。

この世界的に権威を持つ機関の想定に従えば、一人一人の線量が低くてもその人数が多ければ、集団線量に応じて確率的に必ず健康被害が表れるということです。これに基づく推定計算がいまだに見られない、公表されないことも、大きな隠蔽の一つだと思います。ガンや突然死など個別の事象と放射線との因果関係を特定することは不可能で、この点が化学物質による公害などと全く異なります。それをいいことに、統計的に必ず表れるであろう、いや、すでに表れているであろう確率的影響に東電や国が目をつぶることは犯罪に等しいのではないのでしょうか。

### エネルギー源としての不適格性、有害性

次に、原発事故の問題を離れて、原発そのものの、エネルギー源としての不適格性と、有害性のうち最も深刻な問題について述べます。

原発を推進ないし肯定する人たちの最後の拠り所は、地球温暖化問題かも知れません。再生可能エネルギーの開発と導入は爆発的ですが、エネルギー需要の全部を賄うにはまだ至っていません。そこに原発の出番があると言うのでしょうか。しかしウランの資源量は、発熱量ベースで比較して石炭や石油

に比べて圧倒的に少なく、化石燃料の中ではCO2排出が最も少ない天然ガスと比べても、その半分以下です※4。つまり、その程度の時間しか持たないと言うことです。仮に原発を百年程度動かさせたとしても、最後に述べるようにその使用済み燃料の管理が10万年以上というのでは、あまりにも世代間倫理に反し、資源としての地位を認めることはできません。

ウランは、その大半を占めるウラン238をプルトニウムに転換する高速増殖炉があって初めてエネルギー資源として大きな地位を占めることができますが、もんじゅの廃炉に見られるように、その見通しは全くないのです。

最後に、使用済み燃料に含まれる大量の放射能は、化学毒物などと違って無害化できません。もし無害化しようとするれば原子核反応による他はなく、たとえ原理的に可能だとしても、これに要するエネルギーも費用も途方もないものとなるでしょう。また、その過程で新しい放射能が副産物として生じるという、モグラ叩き現象も起きるでしょう。したがって、フィンランドのオンカロで行われようとしているように、10万年以上も人間の生活圏から隔離しなければなりません。

ん。日本にそれに適した場所は見つかっていませんし、あるとも思えません。つまり、日々新たに放射能を生み出す原発の運転は一刻も早く止めなければならないということです。

あらゆる点で原発の稼働は不適切、不道德であり、裁判所には、一刻も早く停止すべきであるという判断を、常識に基づいて下していただくようお願いいたします。

※1 3月15日6時55分から16日6時55分まで

※2 公益財団法人日本分析センターのサイト

<https://www.kankyo-hoshano.go.jp/01/0101flash/01010122.html>

※3 平成18年度 第15回広島県保健環境センター業績発表会要旨の、松尾健氏の「広島県における環境放射能調査」による。

※4 ウラン資源量については日本原子力産業協会のサイト、天然ガスは日本ガス協会のサイトを参照。

[http://www.jaif.or.jp/cms\\_admin/wp-content/uploads/2015/02/uranium2014\\_fig&tab.pdf](http://www.jaif.or.jp/cms_admin/wp-content/uploads/2015/02/uranium2014_fig&tab.pdf)

<https://www.gas.or.jp/tokucho/shigen/>

## “核発電”の6つの神話

行政訴訟第25回口頭弁論(2月21日)意見陳述 戸田清

スケッチ／竹田浩二



私は1956年生まれで、2010年の提訴以来、玄海原発の裁判の原告の一員です。1997年から長崎大学の教員をされており、環境社会学、環境思想、平和学などを担当しています。獣医師免許と社会学博士の学位があり、所属は文系ですが、理系的な観点も自覚的に取り入れています。妻、2人の息子、3人の孫(男1人、女2人)がおり、次世代の生活環境の行方については深い関心をもっています。私の著書に『環境正義と平和』(法律文化社2009年)、『核発電を問う』(法律文化社2012年)、『核発電の便利神話』(長崎文献社2017年)などがあり、原発問題にはそれなりの見識をもっているつもりです。

### 原子力発電と核発電

英語では軍事利用でも商業利用でもnuclearという

共通の形容詞がつき、仏語や中国語でも同様なのに、日本語では「核兵器」「原子力発電」と使い分けられていることに違和感があり、「核発電」という言葉もよく用いています。米国の原爆開発のマンハッタン計画では、ウラン濃縮工場から広島原爆(ウラン原爆)が生まれ、原子炉と再処理工場から長崎原爆(プルトニウム原爆)が生まれました。原子炉が原潜と原発に応用され、それに濃縮ウランが装荷されたので、原発は両原爆(ウラン原爆とプルトニウム原爆)の副産物と言えます。

私の理解によれば、原発には6つの神話があります。「安全神話」「必要神話」「低コスト神話」「クリーン神話」「平和神話」「便利神話」です。

### 小泉元首相の反省

小泉純一郎元首相は、福島原発事故とフィンランドの核のごみ施設「オンカロ」見学を経て、在職時代の原発推進政策を反省し「安全、低コスト、クリーンはみんな嘘だった」と述べています。「安全神話」、「低コスト神話」、「クリーン神話」に気づいたのでした。2013-2015年には「約700日の原発稼働ゼロ」(それで少しも困らなかった)があったので、「必要神話」も明らかになりました。自由民主党の岸信介

氏が1960年の国会答弁で、安倍晋三氏が2002年の早稲田大学講演で「核兵器保有は違憲でない」と述べたことから想像されるように、自由民主党には潜在的核武装への欲求が流れており、核兵器と平和利用は別のもので、無関係であるという「平和神話」の誤りも明らかになりました。彼らは、「原子カムラ」という言葉に象徴される業界の利権構造の維持だけでなく、「核兵器を作れる」というメッセージも出したいのでしょう。またその業界にしても、「不都合な町長の暗殺計画」まであったというから驚きです(斉藤真『関西電力「反原発町長」暗殺指令』宝島社、2011年)。

## 便利神話

「便利神話」というのは私の造語であります。原発を使うのが約150年(1950年代に始まり、22世紀初頭におおむね終結する)であるのに、核のごみ(高レベル放射性廃棄物)の安全管理に10万年(あるいは100万年)もかかるのが、本当に便利と言えるでしょうか。事故調査が困難であり、高線量のため何十年も事故を起こした炉心に近づけないのが、本当に便利と言えるでしょうか。事故調査ができなければ、技術の改善もありません。過酷事故では、事故炉周辺の市町村が何十年も居住不可能になります。熱効率(熱から電気を取り出す効率)が悪いために、火力発電に比べて、同じ発電電力量に対して2倍程度の排熱(温排水)があるので、工学者の冨塚清博士に「退歩の感あり」と評された原発が、便利と言えるでしょうか。発電時には炭酸ガスを出さないが、「熱汚染」は火力発電よりも大きい原発が、地球温暖化対策に役立つと言えるでしょうか。大型石炭火力発電所が供給する大量の電力に依存するウラン濃縮工場が、地球温暖化対策に役立つでしょうか。1950年代にうたわれた「原子力産業革命」もやっぱり幻でした。自動車、鉄道、飛行機、船舶、工場、家庭などの「原子力化」は不可能で、「実用化」したのは原潜、原子力空母、原発(周辺的に原子力砕氷船)だけです。

## 10万年のごみと将来世代

「核のごみの管理」に10万年もかかることは、原子力規制委員会が2016年に公式に認めました。『朝日新聞』2016年9月21日付けの「いちからわかる！ 原発ゴミを10万年間国が管理するんだって？」という記事がわかりやすく解説しています(戸田2017年、36頁に転載)。放射能レベルの高い最初の300-400年間は九州電力(などの電力会社)が管理し、そのあとの10万年は国が管理するということです。プルサーマル発電の使用済みMOX燃料は発熱量が大きいので、困難が増すでしょう。まぐる漁業の町大間で建設中の大間原発は、「世界初のフルMOX」という無謀な試み

です。デンマークのミカエル・マドセン監督の映像『100,000年後の安全』(2009年)も「10万年」の大変さを描いています。フィンランドは「10万年の管理」で、日本もそれになっていますが、米国、ドイツは「10万年の管理」を義務づけています。人類とチンパンジーの分岐が700万年前、現生人類(ホモ・サピエンス)の誕生が20万年ないし30万年前とされています。10万年前の世界といえば、ホモ・サピエンス、ネアンデルタール人、デニソワ人など「複数の人類がいた時代」でした。数万年後には、次の氷河期がやって来ます。10万年というのは、気が遠くなるほど長い年月です。20世紀末から「世界の原発400基あまり」が続いていますが、22世紀初頭に稼働している原発は僅かでしょう。フィンランドほか多くの国が、22世紀初頭の原発稼働終了を想定していると思われる。それからの10万年です。島田虎之介の漫画『ロボ・サピエンス前史』(講談社、2019年)が描いているように、「核のごみの10万年管理」という「退屈だが不可欠な仕事」は、ロボットに任せるとでもいうのでしょうか。

## 「チェルノブイリ」と「フクシマ」

チェルノブイリのような過酷事故の健康影響は当然深刻です。チェルノブイリで国連などによって公式に因果関係が認められたのは、子どもの甲状腺がん、作業員の急性放射線症、作業員の白血病だけと言われていますが、ウクライナ政府やベラルーシ政府も示唆するように、白血病、心臓病などさまざまな健康影響との関係も考慮すべきではないでしょうか(アレクセイ・ヤブロコフほか『調査報告 チェルノブイリ被害の全貌』星川淳監訳、岩波書店、2013年、など参照)。福島第一原発事故の健康影響の調査も、適切になされるかどうか、心もとない状況です(日野行介『福島原発事故 健康管理調査の闇』岩波新書、2013年、など参照)。

## 平常運転でも健康影響

欧米先進国では、平常運転でも原発周辺住民への健康影響が示唆されています。有名なのはドイツのKIKK研究(2008年)で、原発10キロメートル圏の小児がん、白血病のリスクの増大が報告されています。米国の故ジェイ・グールド博士らのグループは、米国の多くの原発の80キロメートル圏で乳がんリスクの増大を報告しています(ジェイ・グールド『低線量内部被曝の脅威』肥田舜太郎、斎藤紀、戸田清、竹野内真理訳、緑風出版、2011年)。グールドの共同研究者であるマンガーノ氏も、「原発閉鎖後の40マイル圏(64キロメートル圏)の小児がん発生率の減少」などを報告しています(ジョセフ・マンガーノ『原

発閉鎖が子どもを救う』戸田清、竹野内真理訳、緑風出版、2012年)。森永徹博士は、玄海町などで白血病が多いことが、風土病(ウイルス性白血病)や高齢化だけでは説明できず、トリチウム放出(玄海原発はその放出量が全国最多)の影響もあるのではないかと示唆しています。西尾正道医師も泊原発近隣で白血病が多いこととトリチウムの関連を示唆しています。トリチウムは放射性水素なので、体内のさまざまな有機化合物に重大な影響を及ぼすこともありうると西尾医師は指摘します。韓国の一部の原発でもトリチウムの排出量が多いと指摘されていますが、加圧水型およびカナダ式重水炉(CANDU)があるた

めと思われます。韓国でも健康影響の調査が必要でしょう。

原発再稼働(とくに実効性ある避難計画の欠如とプルサーマルによる危険の増幅のもと)は疑問であり、玄海原発の廃炉を望んでいます。

※脱原発弁護団全国連絡会「2月の原発裁判」『週刊金曜日』2020年1月31日号10頁参照。

備考 「原発問題の入門書」としてもっともわかりやすいのは、高木仁三郎『原子力神話からの解放』(光文社カッパブックス2000年)である(講談社+α文庫、七つ森書館高木仁三郎著作集第3巻所収)。

## 裁判所は正義の砦 事実と科学的論理で不正を正せ

全基差止第33回口頭弁論(2月21日)意見陳述

堤静雄



久留米の一市民である私に意見陳述の機会を与えて下さった裁判官の皆さんに感謝します。

私は大学の数学科(専攻は位相解析)を卒業し、2007年に高校数学の教員を定年退職しました。

(宇野さん:2012年8月17日玄海全基差止裁判第2回口頭弁論 原告意見陳述者)

### 2 市民運動の組織ができる

福島第一原発事故発生の年の9月に、私が心待ちにしていた「さよなら玄海原発の会・久留米」という市民団体が結成されました。結成したのは井上義昭さんでしたが、翌年に病気で亡くなられたので、以来、会の代表を私が務めています。

### 3 久留米市内のポスティング

会として、講演会や映写会を時々しています。特徴的なことは、久留米市内の全家庭に原発反対のチラシ配布を計画したことです。当初、人口30万人の久留米市を全部回ることは、自分が生きている間には無理だろうと思っていましたが、多くの会員の協力で昨年11月に目的は達成できました。今は、久留米に隣接する小郡市や佐賀県のみやき町などにも配布しています。配布の途中、玄関先や庭先で出会う方からは、よく「お疲れさん」とか「お世話でございます。」という言葉をもらい、国民の多くが原発には反対であることが実感できます。つい先日には拍手をもらいました。その間、会員が増えるという良い成果もありましたが、自宅に変な電話もかかってきました。「このチラシ配布は違法行為なので、証拠としてこのチラシを警察に提出する」、「俺の家にこんなチラシを入れるな」とも言われました。今後は入れませんからお名前をと訊くと、「お前に名前なんか教えられん」と言われたので「それでは次回に省くことができません」と言うと、しぶしぶアパートの名前を言われました。「原発が全部止まって電気が足りなくなったらどうする」と恐い声の電話もありました。当時は全部止まっていたの

### 1 福島の宇野さんからのメール

2011年3月11日の福島第一原発事故発生からわずか2,3日後に、私は福島の宇野朗子さんからメールをもらいました。それには「全国のみなさん、私達の原発反対運動が弱かったために全国の皆さんにご迷惑をかけました。すみません。」とありました。東京電力の社長でもなく、経産省の大臣でもなく、それまでずっと福島県庁で原発反対のアピールを続けて来られた宇野さんからの謝罪のメールです。宇野さんは福島第一原発を止めて事故を防ぐということができなかった自分の非力を詫言っているのです。私はこれを読んで、驚きと緊張で全身が寒くなりました。そして、ささやかなりとも原発に反対して来て良かった、玄海原発反対の署名を数人集めた程度の些細な運動ですが、していて良かった、もし反対してなかったら、宇野さんに対して生きて行く資格が無くなるどころだったと思いました。そして、これからは、原発反対に頑張ろう、孫とゆつくりと遊ぶことも、趣味のピアノの練習をすることもあきらめようと決意しました。



で、その旨を言うと、「本当か、お前は全国の原発を回って確かめたか。」と言われたので、確かめてはいませんが、疑われるなら新聞社に電話してください、どの新聞社でもいいですよ、と言いました。そうすると彼は話題を変えました。電気料金のことや温暖化のことも言われたので、長い時間をかけて丁寧に説明しました。そうすると、「匿名の電話をしてすまなかった」と小さな声を最後に電話を切られました。

#### 4 久留米もトリチウムの被害

久留米は玄海原発からおおよそ70kmです。元純真短期大学講師の医学博士の森永徹さんが玄海原発と白血病の関係性を調査されました。(発表は、2015年7月 日本社会医学会総会)もともと、佐賀県、特に佐賀県の沿岸部は白血病が多い地域でした。それは、原発とは関係ないHTLV-1ウイルスによる成人T細胞白血病が沿岸部に多いからです。森永さんはその影響を差し引いて、玄海原発の稼働開始の10年後から玄海原発の周辺では近いほど白血病が増えていることをつきとめました。それによると、人口30万人の久留米市では玄海原発の稼働で毎年6人が玄海原発が排出するトリチウムで亡くなっていることになりました。久留米も決して玄海原発の被害と無縁ではありません。このことを広く久留米市民にも知ってもらいたいため、トリチウムの学習会をしたいと考えています。トリチウムはたまり続ける福島第一原発の汚染水をどうするかを考えるうえでも重要なテーマです。また、この1月に、たんぼぼ舎からもらったメールによると、伊方原発の付近でも白血病が増えているそうです。原発の中でも加圧水型の原発は特に多くのトリチウムを輩出しているのです。同じ加圧水型の玄海原発も早く止めて欲しいです。つい先日、北海道電力が泊原発で31年間も排気しているトリチウムの量を半分として報告していたことが露呈して社長以下取締役会が謝罪会見を開いた、と北海道の仲間から連絡がありました。九州電力は大丈夫でしょうか。

#### 5 汚い方法で補償費をけちる東電

原発から避難している福島の人、東電との補償交渉の席で、東電の社員から「税金から出るお金なのですよ」と言って値切られるそうです。(NHKテレビ「廃炉への道」16年11月6日)これは何ということでしょうか。福島第一原発事故による補償金は東電が工面すべきなのです。それを国に建て替えてしてもらっているのです。それなのに国民の税金から出ることを理由として値切るなんて人間として許されない発言です。しかし、東電の個々の社員の方は悪気はないのかもしれませんが、東電そのものの姿勢が根本的に

誤っているから、自分たちの暴言に気づいてないのでしょう。社員を人間として誤らせていること、これも東電の罪です。東電には3つの誓いというのがあるそうです。(「原子力資料情報室通信」19年3月)①最後の一人まで賠償貫徹 ②迅速かつきめ細やかな賠償の徹底 ③和解仲介案の尊重。私にはどれも守られていないようで、読んでいるこちらが赤面したくなります。企業は利益を追い求めるだけでなく、社会的な責任を果たすことも求められる時代です。この社会的な責任は私達との話し合いの場を、いろいろ難癖をつけて設けようとしないうる九電にも求めたいと思います。

#### 6 未来への責任

江戸時代から続く久留米市のある酒造屋には「この世は子孫からの借りたもの」と壁に貼ってあります。素晴らしい言葉だと思います。面白いことに、この言葉は、日本から遠く離れたアメリカの先住民にもあるそうです。私達がこの地球に生きていられることは、たくさんの偶然に支えられています。その一つは水が低温になるほど重くなるのではなく、例外的に4℃の水が最も重く、それより下がると逆に軽くなることです。この例外的な性質がなかったら氷は海底から凍り始め、海底での生物は生存ができなくて、人類が地球に誕生することが無かったでしょう。このように偶然に守られている地球環境を人類のエゴで壊していいはずがありません。

#### 7 裁判所は正義の砦

昔、テレビで水戸黄門という番組がありました。その中では毎回のよう不正を働いて金儲けする悪人が登場し、藩の要職にある役人とグルになって善良な町人や村民を苦しめていました。しかし、番組の最後には必ず黄門様が登場し、悪人たちを成敗していました。今の日本はどうでしょうか。今の日本は法治国家です。黄門様のようなスーパースターが突然現れて不正を正す時代ではなく、裁判所が事実と科学的な論理によって不正を正すべき時代です。是非、三権分立の1つである裁判所が正義を取り戻してください。どうぞよろしくお願いいたします。



2/21 佐賀地裁前アピール

## "100万円"受領 玄海町長に住民の命と暮らしを預かる資格なし

### 「賄賂をもらった気分」

1月22日、脇山伸太郎・玄海町長が一昨年の町長初当選直後に、福井県の塩浜工業から祝い金として現金100万円を受け取っていたことが発覚した。

町長は「賄賂をもらったような気分だった」、「(関西電力報道がなければ)人間だから使っていたかもしれない」「脇が甘かった」などと述べた。なぜ、受け取りを拒否しなかったのか。なぜ、ただちに返却せず1年半も持ったままだったのか。町長自ら「賄賂」と発言したように、違法行為の疑いは濃厚である。

### 緊急要請行動

「100万円」発覚前の昨年12月2日「反プルサーマルの日」に私達はマネー問題の調査を町に求めた。

そして発覚後直後の1月27日、16団体連名で「100万円受領の事実経過をすべて明らかにすること、同様の金品受領について全職員と全議員を対象に徹底調査・公表をすること」を求め、町長と町議会に対して緊急要請書を提出した。町長は直接出てこず、防災安全課長らが対応。「文書回答する」と言うばかりで、具体的な回答はなかった。

### 調査もしない、公開もしない町と議会

結局、関電マネー問題発覚後、町は現在に至るまで、調査など具体的に何も動いていないことが分かった。事の重大さを全く分かっていない。

同1月27日、町議会全員協議会が開かれ、町長に説明させたというが、非公開だった。

2月3日、町長は「続投」表明。同10日、臨時町議会が開かれ、突っ込んだ質疑もない中で、「町長給与3か月カット」を可決。

全員協議会と臨時議会は、4日間限定で町のケーブルテレビで放映されただけで、もう見られない。住民の代表たる機関である議会の公開は義務。最低限の義務さえ果たしていない。9人全員が原発に賛成の議会に対しても不信の念は募る。

### 町長は住民の前に出てきて説明を！

3月4日、ようやく町長から回答書が届いた。しかし、質問に対して納得いく回答はまったくくない。そもそも回答に際して面談の場を求めたが、文書回答だけとなった。町長が起こした問題は、住民の前に出てきて自ら答えるべきだ。

住民の疑問に答えず、真相が何も明らかにならないまま、「給料3か月カット」だけで幕引きすることは許されない。原発稼働の同意権を持っている玄海町長は、町民はもとより、全国の人々の命と暮らしを預かっている立場と責任の重さを認識すべきである。

原発は命の問題。カネまみれの原発にNO！の声を、私達は上げ続けていく。(永野浩二)

## 脱原発パネル展 参加者アンケートから

3月11日～15日、佐賀・アバンセにて「第7回脱原発パネル展」を開催、友人・知人、通りがかりの方たち45人が来場しました。

日頃の活動の中で調べ、直接見聞きしてきた原発と放射能の現実を、A3大のパネルにして、毎年2回(3月、9月)開催しています。まだまだ知らされていないことが多い原発問題。一人一人に伝えていくことが大事だと感じています。

パネルは数枚から貸出できます。パネル展を開催していただけないでしょうか。ぜひご連絡ください。

### ＜アンケートより＞

- ・ウランを掘っているインドなどの子どもたちや労働者さん達のこと。コンセントの向こう側にまでは目を向けていなかった。
- ・被ばく労働、子供たちの姿にあらためて恐怖と怒りを覚えた。まだまだ自分がわかっていないこと

が分かりやすくまとめられていた。

・真剣に取り組んである姿に敬服します。

・福島事故検証も終了していないのに原発を動かしているのは非常におかしい。

・食品中の放射性物質の基準値に驚いた。

・原発に関心を持つこと、大切さを再認識した。

・世の中何を信じてよいのかわからない。情報は情報としてこれからは自分で確認したもの、調べたものを信じるべきだと思いました。改めて原発の恐ろしさを知りました。

(石丸陽一)



## 全住民へ安定ヨウ素剤 事前配布を！

原発事故時に「放射能被ばく前の24時間以内」に飲めば放射性ヨウ素から甲状腺を守ることでできる「安定ヨウ素剤」。いざという時のために、手元になければ間に合わないが、これまで国の方針によ

り配布対象は5キロ圏(PAZ)住民だけだった。玄海原発周辺では3年前から30キロ圏(UPZ)の「希望者のみ」への配布がようやく行わるようになった。

佐賀県での配布状況は上の表の通りである。UPZの配布率は対象地域住民のわずか0.4%と、あまりに少ない。

### ●具体化進め薬局配布方式

国は昨年7月の指針改定で、PAZとUPZについて薬局配布方式を認めた。しかし、地域での具体化は進んでいない。

- ・唐津市(昨年12/25回答)「国が全国医師会、薬剤師会と協議しているので、その後に県、市町に話が下りてきて、地域の医師会等と協議することになる」
- ・佐賀県(今年3/17聞き取り)「国がモデルを示せず、やめてしまったので、各県で検討中」

### ●誰が運ぶのか？

周辺自治体最大の人口13万人の唐津市はヨウ素剤の備蓄場所と緊急時配布場所をそれぞれ決めているが、備蓄場所から配布場所にどの職員が運ぶのか具体的に決まっていない(12/25唐津市回答)。

### ●原発30キロ圏外の住民には熊本から？

「避難計画」作成の対象外となっている原発30キロ圏外も、事故時に放射能に襲われる可能性がある。その住民の分のヨウ素剤はどこにあるのか。

- ・国「全国5か所に100万人分200万丸、1か所に20万人分40万丸づつ備蓄。全国どの原発で事故が起き

佐賀県の配布状況	対象者数	配布数	配布率	(うちゼリー剤)
PAZ=5キロ圏	2644人	1441人	54.5%	32人
玄海町、唐津市。40歳未満を対象。2019年度現状				
UPZ=5~30キロ圏	176237人	762人	0.4%	49人
玄海町、唐津市、伊万里市。全年齢対象。2017~19年実績 ゼリー剤は、唐津市の場合3歳未満児2756人に対して33人(1.2%)				

ても、すべて配布できるようにする」(内閣府作成 2017/5/30より山本太郎事務所作成資料)

- ・九州では熊本県に20万人分備蓄。しかし、佐賀県民だけでも「30キロ圏外」には60万人以上いる。
- ・熊本のどこに保管しているのか。佐賀県担当者「セキュリティの問題があるので国は言えないという。私も知らない」。

地震・豪雨など自然災害はいつ起きるか分からないし、道路が寸断され、移動が困難になる。ヨウ素剤は手元になければ、絶対に間に合わない。

### ●先進事例から学べ

- ①兵庫県丹波篠山市(福井の原発群から50キロ)
  - ・医師や市民を入れた検討委員会で議論を重ねた。
  - ・「とっとと逃げる」を基本にした上で、ヨウ素剤の全戸事前配布を実施。
  - ・配布説明会時に託児所を設置するなど工夫をして、ゼリー剤も受領率64.5%に。
- ②茨城県ひたちなか市(東海第二原発 5キロ圏を含み全域が30キロ圏)
  - ・薬局方式で国に先んじて事前配布を進めた。

自称「危機管理のプロ」、山口祥義・佐賀県知事は自然災害対応について「想定外を逃げ口上にするな」と言った。放射能災害についても具体的な想定を示し、危険性を住民に正しく知らせたうえで、ヨウ素剤を全住民に事前配布すべきだ。

自治体や議会へ粘り強く働きかけていこう。

(永野浩二)

## 取り出し迫る 玄海使用済みMOX 行き場はない！

1月14日、プルサーマル実施中の四国電力伊方原発3号機から、営業運転後として国内初の使用済みMOX燃料が取り出された。玄海原発3号機でも今年8月には出てくる。

使用済みMOXは、六ヶ所再処理工場とは別の「第二再処理工場」で再処理を行うとされている。しかし、原子力規制委員会の更田委員長は「現在、第二再処理の具体的な議論がなされているわけで

はない」(2019年12月18日会見)と言う。さらに、使用済みMOXは使用済みウランと同程度に冷えるまで「300年以上かかる」と国は認めた(2019年6月21日政府交渉)。燃料プールで300年間安全に保管できる保証はない。

プールのリラクシングや乾式貯蔵施設が進められれば、使用済みウラン燃料とMOX燃料が宛でもなく増えていくばかりだ。原発稼働停止に追い込もう。

座談会

**原発は知らされていないことばかり！**  
参加者からの感想

私達が行動する中で知った本当のことを多くの方にお伝えしようと、座談会を続けています。「知る」ために、一緒に話しましょう。ぜひお声かけください。

◆「原発って難しいことじゃないの!」

石丸さんの佐賀弁での熱いお話に、どよめき、ため息、笑いもありの会になりました。

○玄海原発で事故がおきたら…壱岐の人は島内避難。離島には蛇腹式テントというものが準備されているのを初めて知りました。ここに10数人で一週間こもって、ウンチもこの中でしなさいよ…って。

被曝は避けられるとしても、別の病気になりそう。赤ちゃんや寝たきりの人はさらに大変。

「難しいことじゃないの！原発ってウンチをどうするか、という問題なの！福島の時も、ウンチの処理が本当に大変だったの！」と、石丸さん力説。なるほど。

○福島で汚染した農地を事故前に戻してほしいという農家の訴えを裁判所は、「放射性物質は土と同化してるため、東京電力の管理下にはなく、むしろ農家が所有してる」といえる」と判断して訴えを退けたとか。

住民の尿検査でセシウムが検出されていますが、「セシウムはあなたと同化してるので、それで病気になってもあなたの持病です」と言われそうですね。

原発は人が作り出したもの。だから人がやめることもできる。反対の声はあげていきたいです。

(12/17筑後 Mさん)

●憤りが伝わってきました

- ・電力会社、政府のやり方を許してはならない。
- ・玄海を身近に感じ、脱原発の思いが強くなりました。
- ・根気強く諦めないで地道に活動を続けていくことの大変さ、大事さを感じました。(12/17筑後 参加者)

◆職場で早速、若い人達に話しました

遅くまでお付き合い頂き感謝しております。多くの事を学び、また更に原発の恐ろしさを実感しました。今日の職場で早速若い社員達に色々話しました。(1/22糸島 Aさん)

●学習を続けます

独占企業九州電力と大手重工会社、政治家、傘下の利権に群がり、金と権力にしか興味が無い経営者達に怒りを覚えます。MOXの39ヵ月の稼働後300年も冷却が必要であることを改めて認識しました。廃棄物処理・廃炉処理等の先送り、今のうちに隠蔽や数値改竄で稼げるだけ稼いで逃げ切る体質が見え隠れします。貴会HPなどを参考に学習は続けますが、国政選挙までも正しいのか否か怪しい今、どう行動すればよいのか手が見つからないのが現実。起こすべき最適な行動は何なのでしょう？(1/25中津 Sさん)

◆一番怖い原発の話

今までで一番怖い原発の話聞いた思いです。知らされていない、隠蔽に付度、アル・ゴアではないですが「不都合な真実」がこの国は多過ぎます。この国は先進国でもなければ民主国家でもないと感じます。(1/25 中津 Uさん)



3/11 スタンディング(佐賀・アバンセ前)

**11月20日以降の主な活動経過**

■11月

- 20日 『裁判ニュース30号』発行
- 29日 唐津市長へ安定ヨウ素剤事前配布要請  
アイ女性会議(福岡)学習会で報告
- 30日 原子力防災避難訓練見学監視行動

■12月

- 2日 第10回反プルサーマルの日  
玄海町長要請とポスティング
- 13日 佐賀地裁口頭弁論(行政第24回、全基第32回)
- 14日 そいぎミーティング
- 17日 グリーンコープ生協筑後支部座談会
- 22日 東区廃炉を考える会で報告
- 25日 唐津市長から安定ヨウ素剤回答・交渉
- 27日 望年会

■2020年1月

- 11日 そいぎミーティング

- 21日 グリーンコープ佐賀学習会でアピール
- 22日 座談会(糸島市)
- 25日 座談会(大分・中津市)
- 27日 玄海町長“100万円問題”緊急要請
- 29日 弁護士会議出席

■2月

- 8日 そいぎミーティング
- 10日 玄海町議会傍聴
- 18日 座談会(佐賀市)
- 21日 佐賀地裁口頭弁論(行政第25回、全基第33回)  
学習会(講師:小山英之さん/戸田清さん)
- 26日 九電佐賀支社から回答・回答

■3月

- 11日 3.11スタンディングアピール
- 11~15日 第7回脱原発パネル展@佐賀・アバンセ
- 14日 そいぎミーティング

## 玄海町民の多くが「原発の危険性はわかるが・・・止むを得んとさ」？ もっともっと対話を続け『知ろう！知らせよう！』

～ 12. 2反プルサーマル行動に参加して～

川瀬正博（脱原発電力労働者九州連絡会議・全九電同友会）

日本最初の玄海原発3号機・プルサーマル発電開始(2009年)から10年目の12月2日、地元玄海・唐津・佐賀はじめ福岡、長崎などから市民約30人が玄海町役場に午前9時に集合、「第10回反プルサーマル行動」に参加しました。私達の会からも唐津市と長崎県大村市から2名が行動を共にしました。

### 玄海町長へ要請

先ず玄海町長へ要請を行いました。町長や総務課長不在のうえに、会議室も準備せず1階ロビーで30分余り立ちっぱなしの理不尽な対応に終始しました。石丸代表ら3名が「原発は犠牲の上にか成り立たない！玄海原発を1日も早く稼働停止することを求める」の15団体連名の要請書全文を読み上げ、提出しました。

石丸代表は無礼な対応に抗議するとともに、「福島の甚大な犠牲に学ぶ必要がある。玄海原発を止める権利が玄海町長にもあるはずだ」と指摘。町長から直接の回答を強く求めました。そして、参加者計7名が「原発は動かさないのが一番の原子力防災」などとそれぞれ問題点をあげて批判しました。

玄海町の青木一さんは「規制委員会が事故リスクはゼロでない」と表明している。ちゃんと受け止めるべきだ」と、安全が保証されていないことを強調。トリウムなど放射性物質の海や空への放出や温排水の影響など、生活を脅かしている実態を訴えました。

私も「関西電力原発マネー不正還流事件」に関して、発言する機会を得ました。高浜町が1970年以降、関電から43億円余の寄付金を受け取り、その用途が不透明であること(11/24産経新聞)を取り上げ、玄海町でも同様の事例がないのか「寄付金や協力金など原発マネーを過去に遡り調査・公表すること」を求めました。「立地自治体への原発マネーは、30キロ圏内自治体・住民等を置き去りにした原発推進策そのもので、原発不信の最たるものだ」と、不十分な避難対策を強いられた同意権もない長崎県松浦市など



12/2 玄海町長要請

摘しました。

### 率直に話のできた個別訪問

要請終了後は30人が9班に分かれて約2時間、玄海町全戸約4割の800戸を個別訪問し、チラシを配布しました。私は一人で約25戸をゆっくりと訪問し、町民9人と各5～10分程度の率直な面談ができ、予想以上に好意的に応じてもらいました。殆どの人が説明にうなずかれ、私たち以上に關心と問題認識を持たれていることを大変心強く思いました。

一人の男性に「以前も入っていたが、チラシはいらん」と最初は断られましたが、長崎から来たことなどを話すと、「危険性は分かっている。しかし、息子は原発の建設関係の仕事をしているので・・・(仕方がない)」と、複雑な心境を吐露されました。「原発が無いと、家族や町民の仕事や生活、町の行政運営に大きく影響するので・・・」と雇用などを不安視する人が多い印象を受けました。「表では原発反対と言えない状況がある」との、原発城下町特有の現実を直接知り、脱原発・原発ゼロに向けた課題の一つだと認識しました。私は「国策による巨額の原発交付金を止め、新たな地域振興支援策に切り換えることや地域独自で原発に代わる再生可能エネ関連の産業育成などを考え、子や孫の代に原発の負の遺産を残さないことが大切ではないか」などと話しました。町民の中からも積極的な意見が出てくることを期待しています。

行動の最後、公民館での全体集会では訪問活動の報告をしあい、避難訓練などについて熱心な意見交流を行いました。

### 大切なのは知らせること、続けること

私は、11月18日付佐賀新聞の佐賀県民世論調査の「玄海原発運転継続に反対46.5%、賛成44.6%で2年ぶり賛否逆転」の記事を紹介し、今回の行動のような市民に寄り添う運動に自信と確信をもって、さらに前進させていきましょう！と訴えさせてもらいました。

みなさんの即行動と群を抜く情報発信力は常に注目され、期待と支援の輪が広がっています。私たちも「反原発の固有種」となる事を自覚し、皆さんともさらに連携を深めて、「大切なのは知らせること、続けること」を、可能な限り実行しようと思っています。

～自分一人一人ができることを～

リレーコラム **心配を信頼にかえて** 土岐民恵

卒業の季節。今年は世界中が新型コロナウイルスの影響を受け、日本においては大切な締めくりとなる最後の月が“失われた3月”のように感じるのは私だけだろうか。心にぽっかり穴が開いたような空虚さが胸を占拠する。

わが家も今年、二女が5年間通った保育園を卒園する。どこもそうかと思うが、卒園式は例年よりも極力短時間で終えるために進行が見直され、残念ながら割愛されるパートもある。

さて、私にとって今春の卒業といえば、長女の頃から通算8年間してきた“園までの送り迎え”である。決して段取りのよくない私は、朝はいつもドタバタ、雨の日も病みあがりの日も、手を引き園までの道を急いだ。私の体調が優れない日は、友人が送迎したり預かってくれたこともあった。

大人の足ならほんの数分で通過してしまう歩道が、幼子の歩幅に合わせると信じられないほど時間がかかる。子育ての経験のある方ならわかりだろうが、幼い子ほど極小サイズの小

石や貝殻、木の実、葉っぱを見つけるのが天才的にうまく、リスのように熱心に收拾する。地面に穴や溝を見つけたらもうおしまい、ポトンポトンと落として消える快感と音を愉しむ作業に夢中になったら10分は動かない。

園で出会った友人から学ぶことは多く、自然育児に始まり自然食、冷えとり、ワクチンの問題、原発発・・・その源流に“子を想う母の愛”が溢れているように感じる。

子どもの病気と向かい合うことも多く、かつて私の胸はいつも心配に支配されていた。自然療法を学ぶなかで秋山佳胤氏のことば“心配を信頼にかえて”に出会い、今は子どもの体に宿る自然治癒力を信じ、少々のことでは動揺しなくなった。なるほどShinpai と Shinrai は一文字違いだが、捉え方もアプローチも真逆だ。

まずは自分と家族の免疫力を高めて、子どもが安心できるような母の笑顔と暮らしを“信頼して”営もうと思う。 (ときたみえ/福岡県)

**お知らせ**

**■佐賀地裁 証人尋問 傍聴を！**

**◆4月10日(金)**

9:20～門前アピール  
10:00～17:00 行政訴訟第26回口頭弁論  
午前 参加人九電社員 赤司二郎氏 証人尋問  
午後 原告 小山英之氏 証人尋問  
終了後 記者会見・報告集会(神野公民館)

コロナ感染対策のため  
人数制限、抽選あり。  
詳細は連絡ください。

**◆4月17日(金)**

13:30～ 全基差止第34回口頭弁論  
被告九電社員 今村和紀氏 証人尋問  
終了後 記者会見・報告集会(神野公民館)

**◇4月9日(木)**

14:00～17:00 裁判の会事務所  
事前学習会 講師: 小山英之氏

**提訴10周年年次活動報告会**

**◆5月30日(土)** 13:00開場 13:30開会  
**佐賀・アバンセ** 4F 第3 研修室(佐賀市天神3-2-11)  
13:30～ 2019年度活動報告・会計報告  
14:30～ 福島報告  
『福島原発事故は終わっていません』  
お話: 菅野みずえさん(浪江町から関西へ避難)  
参加費無料(カンパをお願いします)

**佐賀地裁 結審**

**7月17日(金)**

14:00～行政訴訟結審  
14:30～全基差止結審

お集り  
ください!

※20年度内に  
判決見通し

**会員募集中！**

- 年会費 原告会員1万円。支える会会員5000円。サポート会員一口1000円～。団体会員も歓迎！
- 振込先: 郵便振替口座 01790-3-136810  
玄海原発プルサーマル裁判を支える会

**あなたのチカラが必要です！**

- 座談会しませんか？  
原発のこと、命のこと。少人数で本音トークをしませんか。1人からでも、どこへでも行きますので連絡ください！
- チラシ・ポスティングを一緒にしませんか？